

同時進行型



愛媛県松山市立荏原小学校
石田 年保

実践テーマ 体験とICTを組み合わせることで、児童の学習意欲を向上させる。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入〉 教室の写真から工業製品を探す活動を通して、身の周りは工業製品であふれていることを確認する。(興味・関心を高める)
- 〈展開〉 分解した電卓の部品を電子黒板に提示し、部品の数や種類を確認する。また、部品の数や種類から気付いたことを発表し、気づきを共有する。(考えの共有)
- 〈まとめ〉 自動車の写真を提示し、電卓の部品と対比させながら、数や種類の多さを実感させる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中の工業製品を探す活動を通して、前時の学習を振り返る(静止画①)。 本時の学習課題をつかむ。 電卓の写真を提示し、数や種類を予想する(静止画②)。 	<ul style="list-style-type: none"> 工業製品の写真 電卓の写真
展開	<ul style="list-style-type: none"> 電卓を分解し、部品の種類や数を確認する(静止画③)。 分解して気付いたことを発表する。 分解した電卓を組み立てる。 組み立て(静止画④)をして気がついたことを発表し合う。 必要に応じて児童が電卓を組み立て作業の様子を撮影した写真を提示し、作業中の苦労や工夫について考えさせる(静止画④)。 	<ul style="list-style-type: none"> 分解した電卓の写真 児童が電卓を組み立てている様子の写真
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の部品が3万個も使われている事実を知り、学習問題をもつことができる(静止画⑤)。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の写真



教室の写真から工業製品を探し、身の周りにたくさんの工業製品があることを確認する



分解した写真を提示し、児童の気づきのポイントを書き込み、気づきを共有化する



自動車の写真を提示し、電卓と比べながら部品の種類や数を予想させる

児童の反応・効果

- 電卓の部品の写真を提示し、気づきを書き込んでいくことにより、工業製品の組み立てについての課題意識を高めることができた。
- 組み立てている自分たちの姿を見せることにより、組み立ての時に苦労したことや工夫したことを引き出し、工業生産の人々の工夫や努力につながる感想を引き出すことができた。

活用のポイント

- 電卓の分解・組み立て体験の気づきを共有したり、電卓と自動車の部品の数を対比して考えたりすることができるように、電子黒板と黒板の組み合わせを工夫することが大切である。
- 事前に教師が電卓を分解し、児童が安全に作業を行うことができるように確認をする。また、児童に対しては工業製品を興味本位で分解すると危険なので、保護者の許可なく自分たちだけで行わないように指導することが必要である。